霊山（りやうぜん）〔山頂に寺あり、正法寺といふ。山槐記云、治承（ぢしよう）二年十一月仏寺七十四箇所の其一とす。藤明衡霊山（とうのめいかうりやうぜん）に游ぶの詩無題詩に見えたり、和歌拾遺集及び新続古今集に見ゆ。又山中に長嘯子（ちやうしやう）の宅址あり〕

東山冬景　　三峰　荷田信郷

棲々閣々雪如レ塵。　一様ノ瑶光望裡新也。
不二是レ東山謝家妓一ニ。　婆姿縞袂素袂ノ人。

東山　　梅華仙

東山三月競二繁華一ヲ。　紅錦青羅人似レ花タリニ。
終日春風吹不レ落ス。　芬芳脳殺ス幾千家。

京中が吹れにのぼる若葉かな　　浪花才麿
上人の木履をからん夕しぐれ　　竹翁
盃のしばししづむや夕がすみ　　轍士

都林泉名所図会巻之貳終